

NPO 法人 白十字在宅ボランティアの会 発行(2008.7.3 発行人 加藤敦子)
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町2-7 ディアコート砂土原204
TEL/FAX 03-5935-7708 E-Mail volunt-hakujuji@coast.ocn.ne.jp

当、白十字在宅ボランティアの会も、活動を開始して早や1年が過ぎました。当会の活動にご協力・ご賛同いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。事務局の体制が整わないことを理由に、会報を発行できず、皆様には大変失礼致しました。今後は、年3回発行を目標に頑張ります！！

~~~~~

## 一年をふりかえって

NPO 法人白十字在宅ボランティアの会 理事長 秋山 正子

長年あたためてきた「ボランティアの会」のきちんとした組織づくりを、支えて下さる多くの方々のかをいただき、NPO 法人として認証を受けるに至り、具体的な活動を展開して一年が経ちました。

NPO 法人になる以前からボランティアとして活動し、私たちの在宅ケアの実践を支えてきて下さった方々も、引き続いて活動して下さっています。また、新しい活動に参加して下さる方々も増えてきました。賛助会員として経済面での援助をして下さる方も、私たちの大きな支えです。

白十字訪問看護ステーションの事務所の中で事務局機能を発揮しながら、「30年後の医療の姿を考える会」や、社会福祉協議会、日本財団との助成金の交渉等にも積極的に取り組んでくれる、加藤事務局長の働きなしには、この一年はありませんでした。あらためて、適任者をこの時に出会わせてくれたチャンスに心から感謝したいと思います。

「ボランティア養成講座」から始まり、このところ活発に活動し出した「聞き書きボランティア」の養成とその活動は、目を見張るものがあります。

ボランティア・スピリットとして、好奇心、共感する心、受容する頭脳、努力する態度、真面目な取り組みの態度、誠実な態度が挙げられています。また、あらゆる事態に対しても事前準備など出来ないことが多いので、あらかじめ想定できないさまざまな場面にぶつかっていくことも少なくなく、こういう事態を乗り切ろうとする意思がボランティア・スピリットともされています。

白十字「在宅」ボランティアの会の、「在宅」というキーワードは、まさに、いろいろな出来事が想定外におこる「在宅」での場面に、そこに対応するべく、ボランティア・スピリットが遺憾なく発揮するところに存在意義があります。

在宅ホスピスを受けている方への聞き書きボランティアの活動は、亡くなるうとするそのぎりぎりの時間まで生きぬく、その人の「いのち」のリレーを託された内容で、ボランティアは多くの宝物のような思い出をいただきました。

「支える」つもりが「支えられた」、お互い様の感謝の思いで、次のステップに進んで行きたいと思っています。

皆様からのご支援を心から感謝して。今後とも、引き続きご支援をお願い致します。



ボランティア中の理事長  
(在宅の利用者さんに安来節を出前♪)

# この1年の歩み

昨年から今までに開催した講座や講演会について、以下にご報告致します。

|          |             |                                                                                                                 |
|----------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2007年    | 2/18        | 30年後の医療の姿を考える会 市民公開シンポジウム<br>「メディカルタウンの青写真を語る」共催                                                                |
|          | 4/8         | 30年後の医療の姿を考える会 市民公開シンポジウム<br>「安心して暮らし続ける町をめざして」共催                                                               |
|          | 4/10~28     | ボランティア養成講座（平日夜と週末の2コース、全7回）開講                                                                                   |
|          | 5/26~9/15   | 誰でもできる聞き書き講座（実習期間挟み、全4回）開講                                                                                      |
|          | 7/16        | 30年後の医療の姿を考える会 市民公開フォーラム<br>「未来への懸け橋・メディカルタウン」共催                                                                |
|          | 8/7         | 夏休みの体験ボランティア受け入れ（中学2年生）                                                                                         |
|          | 11/6~翌年3/11 | 運営ボランティアのためのパソコン教室（全14回）                                                                                        |
|          | 11/18・23    | 聞き書きボランティア養成講座 開講<br>（12月に講座修了生による自主的な勉強会が開かれました）                                                               |
|          | 12/8        | ボランティア・サロン開催                                                                                                    |
|          | 2008年       | 1/27                                                                                                            |
| 2/24     |             | 30年後の医療の姿を考える会 市民公開シンポジウム<br>「メディカルタウンの地方（ちかた）学」共催                                                              |
| 3/20     |             | ボランティア・サロン開催                                                                                                    |
| 4/5~5/10 |             | 聞き書きボランティア養成講座 開講（実習挟み、全3回）                                                                                     |
| 4/26     |             | ボランティア・サロン開催                                                                                                    |
| 5/17     |             | 市民公開シンポジウム「この町で健やかに暮らし、安心して死ぬために～在宅ホスピスが実現できる地域づくりをめざして～」主催<br>（上記シンポジウムは、日本財団の助成金事業であり、新宿区内3カ所で5月・7月・9月に開催します） |

## \*助成金申請関係\*

- 2007年 7月 新宿区社会福祉協議会 ふれあいのまちづくり事業助成金 申請  
地域福祉活動団体、グループの立ち上げに関する初期購入物品に対する助成を申請。
- 8月 上記 交付決定  
事務局で使用するパソコン・プリンターやデジカメ・ビデオカメラなどを購入。
- 10月 日本財団 事業助成金 申請  
財団の重点テーマである「ホスピス充実のための活動」について、福祉職に事前アンケートを取り、在宅ホスピスを支えるケアで不安な点を調査。一般市民および、ケアに関わる介護・福祉職が抱える不安を解消することと、地域での在宅ホスピスのネットワークづくりを目的としたシンポジウムを開催。その後、在宅ホスピスに関するリーフレットを作成する、という事業内容で申請。
- 2008年 2月 上記 交付決定  
4月から翌3月までの1年間で完了する事業に対する助成です。予定通り進行中。

## ボランティア養成講座

昨年4月の火曜日と土曜日を使って「平日夜コース」「週末コース」の2コースを開講し、併せて15名の方々の受講をいただきました。

ボランティアの定義など総論的な内容を、初回に座学で学びましたが、次の回には受講生同士がペアになって「ブラインド・ウォーク」をしました。

「見えない」不自由さを“感じる”こと、相手を“思いやる”ことを学ぶための体験学習でした。

最終日は、数人で1グループになり、訪問看護や訪問介護などの在宅サービスを利用されている方のお宅に伺いました。在宅での暮らしに触れる貴重な体験になったようです。



## 聞き書きボランティア養成講座

今や、当会の目玉企画になっている「聞き書き」。これまでに3回の養成講座を開講しています。

「聞き書き」とは、お年寄りの話を聞いて、それを文章にし、後世に伝える橋渡しをすることです。「お年寄りがひとり亡くなると、地域にひとつ図書館がなくなる」と言われるくらいですから、聞き手であるボランティアも多くの学びを得ます。また、お年寄りが話したことを「生かす」ことにより、語り手自身もボランティア活動に参加していることになり、意欲が湧いたりします。

講師は毎回、聞き書き作家の小田豊二さんをお願いしています。いつも笑いの絶えない講座になり、受講生みんなをファンにになってしまう魅力をお持ちの先生です。

小田先生は「聞き書きという技術を、ボランティアの救急箱のようなものにして欲しい。これを持って行けば、最低限のことはできるから…」とおっしゃいます。

これまでに、25名の方々が、救急箱を頂いたこととなります。



## 運営ボランティアのためのパソコン教室

ボランティアさんから新たなボランティアさんをご紹介いただいて開催した講座です。できたてホヤホヤのNPOですので、書類も名簿も、何もかもが「これから」…。そんな状況を打開すべく、WordとExcelの基本を教えていただきました。

この、心強い助っ人ボランティアさんは、この講座後も、聞き書きボランティアが行き詰る、編集作業のイロイロを解決するために、サポートデスクのようにお越し頂いています。

そして、これからはホームページの立ち上げに向けて、力を貸して頂く予定です。



活動内容のいくつかを紹介します。

# ボランティア 活動紹介

## リハビリのための水泳指導

年齢が若く、「高齢者施設のデイケアはちょっと…」という方を、プールでのリハビリにお誘いすることで、ご本人のリハビリと、ご家族の休息になります。指導者の資格を持った方がボランティアさんです。また、プールまでお送りし、着替えをお手伝いするところにも、別のボランティアさんが関わっています。

## 透析通院時の付添

要支援の方ですので、お一人で歩けますが、透析に行く時間が、高校生の登校時間と重なっており、ご自宅周辺が通学路になっているため、杖をつきながら歩いても、ぶつかりそうになったり、また、耳も遠くなって来たので、後ろから来る自転車が怖い、とのことで、ご自宅からバス停までの付添をしています。

## お別れの会の運営ボランティア

亡くなられた方の追悼の会を運営するお手伝いをしました。故人を偲ぶ落語会や、障がい者施設に通所されていた方の、施設でのお別れの会の運営をサポートしました。

## ご近所の見守りのボランティア

認知症のため、夕方に落ち着かなくなり、歩けないのだけれど、ベッドから一人で降りようとしてしまい、尻もちをついてしまうと、家族だけでは起こせない、とお困りの声を聞き、夕方に一声かけて、様子を見に行ってくれる、という関わりを、ご近所に住むボランティアさんがやってくれました。ご家族の相談相手の役割も担ってくれたようです。

## バースターカードづくり

ボランティアさん自身が、花の写真を撮り、パソコンでバースターカードを作ってもらい、NPOが同居している訪問看護ステーションやヘルパーステーションに頂いています。担当者がメッセージを書いて、ご利用者さんにお届けするのですが、季節の花の写真があるので、会話も弾み、大変喜ばれています。

## 学童保育のお迎え

お母さんは訪問看護を受けて療養されているため、お子さんを学童保育に迎えに行くのが難しく、代わりに迎えに行ったり、障がいをお持ちのお子さんの遊び相手にもなって下さっています。

## ボランティア登録のお願い

ボランティア登録書を作りました。活動可能な曜日や時間帯、活動内容などを教えていただき、迅速にコーディネートが出来るようにして行きたいと考えております。事務局にいらした際に、ご記入をお願い致します。

## 聞き書きボランティア

聞き書き講座を修了された方々が次々、活動に加わってくださり、活動の輪が広がっています。最近グループでの活動をスタートしているので、ちょっと詳しくご紹介します。次ページへ…。

これまでに3回の聞き書きボランティア養成講座を行って来ました。講座を修了した人たちが「聞き書きボランティア」として活動を始めています。また、直接訪問するのは苦手だけれど、手伝えることがあれば…と、ボランティアをサポートするボランティアが加わり、自主的な活動を始めています。

白十字訪問看護ステーションの看護師から紹介してもらい同ようになったHさん、Hさんのお宅に往診をしている開業医の先生からご紹介いただいたKさん、Kさんのケアマネさんが紹介して下さったTさん…。「聞き書き」の輪が広がっています。

### 「聞き書き」と「ボランティア」

「聞き書きボランティア」として活動を始めたけれど…ふと気づくと「おしゃべり相手」だったり、「リハビリのお手伝い」だったり…そんな活動をしてきている、頼もしい「聞き書き隊」の皆さんです。

「こんにちは～」と伺うと、本当に嬉しそうな顔で迎えてくれるのを見ると、嬉しいけれど、申し訳ない気持ちすらしてしまいます。

入院した病院にて  
「看護婦さん！私の話を聞きに来てくれる人がいるんですよ。そして、本を作ってくれたんです。」  
(Hさん)

言語障害がある方で、こちらがなかなか聞き取ることが出来ず、申し訳ない気持ちになることもあるけれど、私と話すことが、リハビリになるなら、出来る限りのお手伝いをしたいと思っています。

テレビは嘘ばかり！本当の東京大空襲を話しておかなくっちゃ！  
(Kさん)

お渡しした聞き書きの冊子を、とても喜んで下さり、お孫さんにもお見せしたり、お孫さんもご自分の会社に持って行って同僚の方々に見てもらったと聞き、感激しています。

自分が行くと、昨日はボランティアさんと、こんな話をした、〇〇の歌と一緒に歌ったんだ…と楽しそうに報告してくれます。  
(Hさんご家族)

そんな大変な思いをして育ててくれたんだから、聞いてもらいなよ。書き残してくれるなんていいじゃない?!是非、やってもらいなよ。  
(Mさんご家族)

### 聞き書き隊 結成！！

聞き書き講座修了生の皆さんが、ほぼ毎月、自主的に集まっています。文章にしてはみたけれど、製本するにあたって、もっと素敵な本にする方法はないかしら？みんなで知恵を出し合い、時に、パソコンに強いボランティアさんを巻き込んで、資料を集めたり写真をスキャナーで読み込んだり、挿絵を描いたり…。「聞く」ときも「書く」ときも、「編集」するときも…全部が楽しい『聞き書き』です。

覗いてみたいな～、と思われた方は、お気軽に事務局までお問い合わせ下さい。



# 今後の予定（7月～9月）

※未確定の企画もあり、参加希望の方は確認のお電話をいただくと幸いです。

7月 3日（木）18：30～21：00 四谷区民ホール

市民公開シンポジウム「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために～在宅ホスピスが実現できる地域づくりをめざして～」

\*

7月26日（土）13：00～17：00 事務局

ボランティア・サロン…何をするかは未定ですが、カエルづくりの材料の他、風鈴や万華鏡を手作りするキットをご提供できます。

\*

（8月はお休みにしようか考え中。もちろん、持ち込み企画など大歓迎です！！）

\*

9月 9日（火）13：30～16：30 東京ボランティア・市民活動センター会議室A・B

公開講座「聞かせてください、あなたの人生。～聞き書きというボランティア～」

※新宿区社会福祉協議会の助成金事業に決まりました。

\*

9月20日（土）13：30～16：30 角筈区民ホール

市民公開シンポジウム「この町で健やかに暮らし、安心して逝くために～在宅ホスピスが実現できる地域づくりをめざして～」

## 掲示板

### ボランティア募集！！

9月9日（火）の聞き書き公開講座の会場設営や受付を手伝ってくれるボランティアを募集しています（若干名）。当日の午前中から、資料のセットや物品の用意を当会事務局にてお手伝い頂き、そのまま一緒に会場まで運んでいただいて、準備～後片付けまでをお願い致します。ご都合のつく方はご一報ください。（担当：加藤）

### 会員継続および会費納入のお願い

遅くなりましたが、2008年度の会費納入のお願いを別紙にてご案内さしあげます。引き続き、会員として当会の運営をサポートして頂きますよう、お願い申し上げます。また、新しく会員になって下さる方も大募集中ですので、ご紹介いただくと幸いです。

### 編集後記

ようやく「会報」第7号を発行することが出来ました。シンポジウムの準備で忙しい中、ボランティアの依頼も新しく入り…充実した日々を送らせて頂いた一方で、会員の皆様へのご報告が遅れてしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。

次号以降の会報では、ボランティアさんの生の声もお届けできるように工夫して行きたいと考えています。今後とも変わらぬお付き合いを、重ねてお願い申し上げます。

事務局 加藤敦子